

第1回新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会について（会議録要旨）

標記会議について、次のとおりお知らせします。

記

1 開催日時 令和4年8月4日（木） 14：00～16：00

2 開催場所 勤労福祉会館5階大ホール

3 出席者

(1) 委員 8名（欠席1名）

菊池透委員、倉原宗孝委員、小枝指好夫委員、今野紀子委員、高橋悟委員、中島清隆委員、小野田撰子委員、佐々木みどり委員

(2) 一般傍聴者 無し

(3) 報道関係者 10社

(4) 事務局

佐藤総務部長、小笠原都市整備部長、立花総務部次長、阿部総務部次長兼情報企画課長、鈴木管財課長、小林財政部長、齋藤都市計画課長、大坪市街地整備課長、遠藤事務局補佐、企画調整課副主幹兼計画経営係長（企画調整課長代理）

4 会議の概要

(1) 開会

鈴木管財課長の進行により、新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会（以下「懇話会」という。）を開会した。

(2) 委員委嘱

委嘱状の交付により、委員9名（欠席者を含む。）を委嘱した。

(3) 市長挨拶

22ページ「市長挨拶」のとおり。

(4) 委員紹介

事務局から、委員及び事務局の出席者を紹介した。

(5) 座長及び副座長の選任

新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会設置要綱（令和4年6月29日市長決裁）（以

下「要綱」という。)第4の規定に基づき、座長及び副座長を互選し、倉原委員を座長に、中島委員を副座長に選出した。

(6) 意見交換

座長の進行により、次ページ以降の「意見交換内容」のとおり意見交換を行った。

(7) その他

事務局から、第2回懇話会を令和4年9月22日(木)午前9時30分から勤労福社会館401-402会議室で行うことを説明した。

(8) 閉会

《意見交換内容》

(座長)

では、さっそく始めたいと思います。(1) 新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会について、事務局から御説明いただいでよろしいでしょうか。

(事務局)

※ 要綱、懇話会の進め方について、市民会議及び懇話会について、及び新市庁舎整備基本構想策定スケジュールについて、別添資料1から資料4までにより、説明を行った。

(座長)

次第の方には、アからオまで、新市庁舎整備の必要性、必要な機能、規模、整備手法、整備エリア、とありますが、後で振り返ることを前提に、アから順番に御意見をいただければと思います。

まずはアの新市庁舎整備の必要性について、御意見、御質問がありましたら挙げていただきたいと思います。報告書では、7ページから19ページになると思います。

(委員)

資料の主要庁舎の状況のところに残存年数という言葉が使われています。耐用年数のことだと思いますが、物理的なものなのか、法的なものなのか、経済的なものなのか、どういったものを示されているのでしょうか。

それと、愛宕町分庁舎や本庁舎はまもなく年数が経ちますが、手を加えていけば残存年数は伸びるのか、あるいは何か対応する対策はあるのかそのあたりの考え方を伺いたいと思います。

(事務局)

残存年数ですが、本庁舎は鉄骨鉄筋構造となりまして、減価償却資産の耐用年数等に関する省令というものがあるのですが、その省令によりますと、耐用年数が50年となっております。説明の中でも申しましたが、耐震工事をしまして、20年から25年の延命をしたということになります。残存年数を過ぎたらということですが、過ぎたとしても使用できるものでございます。

(座長)

使ってはいけないということではないけれども、目安ということですか。

(事務局)

はい。

(委員)

耐用年数について、現状で劣化診断をされて、配管や水回りとか、いろいろな影響があると思うのですが、調査等はされているのでしょうか。

(事務局)

劣化診断は行っておりませんが、給水管、排水管がかなり老朽化しておりまして、本庁舎本館は改修工事を行っております。

(委員)

改修工事は、部分的な改修工事ですか。

(事務局)

大規模な改修工事です。

(座長)

さきほどの委員の後段の質問はいかがですか。

(委員)

使えないことはないということで理解しました。

(座長)

そのほか、必要性についていかがでしょうか。

(委員)

これほど、庁舎がいろいろな所に散らばっているのもそうないのかなと思っています。基幹的な部署は、ある程度集中しないと効率が悪いと思っています。都南分庁舎には、都市整備部が入っていますが、ほかにも教育委員会が入っています。教育委員会は、たしかに市長部局ではないのですが、行政の一角として、遠くにあるより近くにあった方がよいと思います。新市庁舎を整備するにあたっては、検討して欲しいと思います。検討の結果、駄目なら仕方がないとは思いますが、初めから駄目だということではなくて、検討はして欲しいと思います。

(座長)

今後の検討への御意見ということで、ありがとうございます。他にありますか。

(委員)

整備の必要性について、福祉の分野では、合理的配慮ということが義務付けられているは

ずですが、これから先、少子高齢化に向けて、障がい者にとって、今の庁舎が使いづらいとか、危険を感じるとか、駐車場不足とか狭いとかバリアフリーでないとか、ずいぶん言われています。補修や改修という段階ではもうないと感じますので、是非整備を進めて欲しいと思います。

(座長)

福祉の分野からするとだいぶ痛々しいということでしょうか。ありがとうございます。ほか、必要性についていかがでしょうか。

(委員)

劣化診断されてないということで、おそらく躯体だけではなく、空調なども問題を抱えておられると想像します。私も整備を検討すべきと思います。

併せて、防災面でも、現状では地下に電源系統が集中しておりますが、昨今の雨の問題がある中で、浸水想定区域内なのに電源が地下にあります。太陽光発電があるとはいえ、悪天候の場合に効率的に運転する訳ではないので、機能面でも補強しなければならないと思います。未来のためにも機能改善が必要なのですが、それすら手を付けるには老朽化で困難な状況だと思いますので、整備の検討が必要だと思います。

そのほかにも行政のあり方について、オープンなスペースの確保や庁舎の使い方の見直しも必要で、今後の検討の中に出てくると思いますが、それへの対応についても、今の躯体では費用面を含めて困難だと思いますので、整備の検討を進めるべきだと思っています。

(座長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。もしありましたら後からでも結構です。

全体として、福祉の面、構造や防災という面から、やはり整備が必要だという御意見だったと思います。

続きまして、機能面について、報告書の20ページから25ページのところで、自由に御意見をお願いします。

(委員)

20ページ(3)のところで、今後、人を育てるということや世の中の高齢化の課題、デジタル化への対応ということを考える中で、市役所は新たな賑わいや魅力をリードしていく立場ですので、今までのような窓口を中心とした市役所業務だけではなく、公民連携や産学官の連携といった開かれた場所という機能も必要ですので、これからの市の賑わいをリードするよ

うな環境、機能についても検討を進めていただきたいと思います。

(4) にもありますが、オンラインやワンストップの機能があれば、現状のような「たらい回し」はなくなりますし、盛岡市では行政デジタルトランス・フォーメーション推進計画があり、ワンストップで対応できること、オンラインで対応できることを進めていますし、庁舎が分散していても非効率という考え方が変わってくると思っています。

グリーンな庁舎ということで、ゼロエネルギーの観点、庁舎自体のエネルギーの収支をゼロにしましょうという話があると思いますが、関連して、ビルの見える化、ゼロエネルギーマネジメント的なことやビルの監視システムといった機能面の検討も必要になってくると思います。

(座長)

ありがとうございます。そういう意味では、報告書にうまくまとめられている一言一言について、深く考えてみるということも重要かと思います。とりわけ、具体的な内容については今後の議論かと思いますが、冒頭におっしゃった「開かれた機能」や「リードする機能」というのはこれからの盛岡市をはじめ、社会に向けて大事なことだと思います。他いかがでしょうか。

(委員)

報告書では22ページの財政負担の軽減と新たな価値を生み出す機能の項ですが、公民連携ですとか、民間施設との合築が書いてございます。商工会は、盛岡市とコラボした事業をしています。例えば、コロナ対策の助成支援事業やさんさ踊りは市と相談しながら一体でやっています。別の組織だけど同じ目的で、公民連携を実際にやっている団体です。私どもの建物は昭和57年の古い建物で、どうしようかと議論になっておりまして、理想を言えば、どこかに新築していただいて、ワンフロアくらいを貸していただいて、そういうかたちで、同じ建物の中であれば、例えば事業者が市にも相談し、会議所にも相談するというようにワンストップもできますし、そういったことも考えられます。さまざまな公民連携のかたちも含めて考えて欲しいと考えております。

(座長)

ひとつの貴重な御意見だと思います。ありがとうございます。他にありますか。

(委員)

持続可能性ということについて、3点ほどお話させていただきます。

何日かかけて、市民の方にもインタビューをしました。この会議ではお金の話はあまりしなくてよいと言われていたのですが、市民の方は税金の使い方に厳しい目を持っています。例えば、アイーナに県立図書館を作りましたが、元の場所でなぜいけなかったのか、なぜ移したのか、そして、元あった場所には歴史民俗資料館が入ってというお金の使い方に納得ができない、あるいは、これまで盛岡市では借金が溜まってきたのは何故なのかという説明がなされていない、そういう厳しい目が注がれているのも事実だと感じました。新市庁舎の建て替え問題に関する質問だったのですが、その話を飛び越えて、そういった市のお金の使い方に対する厳しい目があるのも事実だと思います。そういう意味で財政的な持続可能性について、市民が高い関心を持っているということが言えると思います。お金の使い方についての丁寧な説明が必要と存じます。

2点目は建物の持続可能性についてです。3月まで環境省に勤めていたのですが、建物や家庭からGHGの排出量、温室効果ガスの排出量が日本では比較的增加傾向にあると言われていています。庁舎を建て替えるということは、20年30年で建て替えるということではなく、いったん建て替えば50年とか100年とかそういった持続可能性を持つ建物であるということはとても大切なことだと思います。我が国は2050年カーボンニュートラルを掲げておりまして、カーボンニュートラルの目標を達成するためにも、建物からの排出量を減らすということは重要な視点だと思います。例えば、病院や空港は一つの目標に向かって建物全体が疾走していくようなところがあって、建物がその役割の影響を受けるということがありますが、市役所は市民の多様な要求に応える、そういった機能をもった集団だと思います。その機能と役割を果たすことができれば、何も高層ビルでなくてもよい訳で、例えば2階や3階建ての県内の木材を使った低層住宅に近いような、100%木材でできた木造の市役所というのも選択肢として有りかなと思います。先ほど話があった市民のフォーラムや商工会議所関連のそういう施設などを取りまとめて、誰もが訪れて要求や要望に対して、何らかの答えを出してくれるような、そういった機能が新しい市役所の役割、そういった建物にしていくことが持続可能性の一つかと思います。

3点目は、防災上の持続可能性ですが、県立大学では、防災復興支援センターを来年度の発足に向けて準備会議をまとめているところですが、各大学や他の市町村と連絡を密に取り合うことができる防災機能の、そういった持続可能性を模索するような部署が新たに市役所に存在することが将来に向けて100年先、200年先に向けた、あるいは過去の原因があって結

果がある、こういった要因があつてこういった災害があつた、こういった被害があつた、そうした歴史的に検証するような、そういった組織であることが必要なのではないかと思います。それこそ大学との連携の中で持続可能性を探る試みと言えるかと存じます。

私からは、持続可能性を持たせた、将来を見据えた市役所にするということも一つ有りかなという意見でございました。

(座長)

ありがとうございます。これからの検討に向けての貴重な御指摘だったと思います。

持続可能性、サステナビリティ、すごく大事なテーマですけれども、とりわけ、経済性、市民の目が厳しいという自覚、環境面での持続可能性、それから防災ということ 키워ドにしつつ、いろいろな連携、おそらくそれは防災対策として、日常のことから強くなっていくような体制作りなのではないかなと、その辺を模索していくと、さきほどの委員の開かれた機能やリードする機能とかにつながっていくのではないかなと思いました。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(委員)

さきほど、新市庁舎建設に反対のような雰囲気と言ったかもしれませんが、けっしてそうではありませんので、申し上げておきたいと思います。

必要な機能についてですが、他の委員からお話のあったとおり、防災機能のところでは深堀の議論になるのかもしれませんが、平屋、低層ということは、地震対策にもなります。土地が広く必要になるのかもしれませんが、高層よりも低層の方が地震に強いということが言えます。

それから、良質な市民サービスを提供できる庁舎というところです。ワークショップの意見も拝見しましたが、新市庁舎が完成したからといって問題をすべて解決できる訳ではなくて、新市庁舎が建つ前、現時点から対応できることがあると思います。ユニバーサルデザインということが盛んに言われていますが、看板が見づらいといったところは、例えばピクトグラムを使ってみたり、最初はお試しでも手作りでもいいと思うんです。見やすいかどうかというところを、今の庁舎でできることから。

あとは、昔に比べれば対応がよくなっていると職員の皆さんは仰ると思うのですが、ワークショップの御意見を拝見した限りでは市民の皆さんが求めるレベルまで達していないだろうと察するところではございまして、そういったことも含めて、新市庁舎が建つ、例えば10

年後を想定されているのであれば、それまで時間がありますので、現状のままではなく、できるところから、ソフト面の向上など、新市庁舎に向けて期待したいなと思います。ソフト面もハード面と両方良い方に向かってこそ新市庁舎だと思いました。

(座長)

大事な御指摘だと思います。良い建物を建てるのはもちろんですが、建つまで待つということではなくて、いろいろなアイデアや御意見があると思いますので、やれることは明日からでもやるということ、建てることを目指しながら、できることはどんどんやるというようなことも是非検討していく必要があるかなと思います。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(委員)

2点ほど教えてください。盛岡は県庁所在地なので、県庁と市役所の関係性についてです。今は岩手県庁と盛岡市役所は並んで建っているのですが、かつて何十年か前に山形県で県庁が郊外に行ったことがあります。今は街の中になったと思いますけれども、田んぼの中に県庁がありました。岩手県庁でも建て替えのニュースがあり、関係ないことはないと思いますので、もし、山形県の不便さや功罪のようなことが分かれば教えてください。

それから、庁舎のあり方、市民サービスについてですが、窓口のほかに市民ホールがありますが、今は、ちょっとしたスペースのみで、昔はもう少し広がったと思います。全体的に市役所の仕事が増えて、その分小さく押し込まれた結果、市民が自由に使えるスペースが無くなってきたと思いますので、行政のためだけの施設ではなくて市民が集まって交流できるというような機能を持たせた庁舎であるべきだと思います。市民にとってシンボリックな場所になって欲しいと思います。

(座長)

御意見と御質問がありましたが、事務局いかがでしょう。

(事務局)

報告書の32ページに地方自治法第4条を記載しています。第1項で、地方公共団体は、その事務局の位置を定め又はこれを変更しようとするときは、条例でこれを定めなければならない。第2項に事務局の位置、市役所本庁舎の位置ですが、位置を定め又はこれを変更しようとするに当たっては、住民の利用に最も便利であるように、交通の事業、他の官公署との関係等について適当な考慮を払わなければならない、とあります。他の官公署と近いほうが

利便性が高いと思いますので、今、県庁と市役所が近いということかなと思います。あと一団地の官公庁施設として、都市計画で区域として定めているというあたりも一つかなと思います。

(委員)

山形県はどうだったのかな、良かったのか不便だったのかという感想はいかがですか。

(事務局)

失礼しました。山形県の件については把握しておりません。

(座長)

他の自治体についても、よい事例があれば情報をいただければと思います。ということでよろしいでしょうか。他いかがでしょうか。

(委員)

未来を見据えた、将来を見据えたという観点から、見直したり計画を立てたりする必要があると思いますが、最近、雨で洪水や浸水のニュースを恐ろしいほどに見ています。中津川は氾濫したり洪水になったりしたことは近年あるのでしょうか。

(事務局)

最近、洪水で庁舎の中に水が入ってきたという記憶はありません。

(委員)

ありがとうございます。もし、そういうことがあれば市内全体の被害になるんじゃないかな。今の市役所は高いところにある訳ではないので、内丸界限は平面だと思いますが、水害を考えたときに、全体を見直して、考えを改めなければならないのかなというのが一つありました。新市庁舎は、安心して利用できる防災機能が備わって、誰もが安心安全で利用できる、そういう庁舎になる必要があると思います。まずは安全な庁舎ということを目指して欲しいと思います。

(座長)

安心安全が大事という御意見だと思います。その辺はハザードマップなども参考に議論されているんですね。

(事務局)

報告書の34ページのエリアのあたりに地図がありますが、これは防災マップでございます。中津川沿いが濃いめになっていますが、だんだん離れていくにしたがって色が薄くなってい

ます。薄くなっているところは洪水浸水想定区域外になっていきます。

(座長)

カラーだとよく分かりますよね。

それでは、だいたい1時間くらい経ちますので、一旦休憩しますか。5分ほど休憩しましょう。

休憩

(座長)

では、後半始めてよろしいでしょうか。規模について、御質問、御意見がありましたらお願いします。

(委員)

規模のところでは質問です。令和17年度推定人口が緩やかに減少という資料があります。

職員数に若干変動はあるようですが、1,300人から1,500人程度を想定されているようです。人口の減少に対して職員数が変わっていないというところがどうなのかなと。デジタル化や盛岡市で積極的に採用されている指定管理制度などがある中で、職員数が減らないというのはどうなんだろうと。皆さん夜遅くまで残業されたり多忙ということは承知していますが、デジタル化などに対する職員数のところでは。

それから、公用車ですが、現在105台という資料を拝見しましたが、これは職員数、常勤1,100人に対して10分の1というのは多過ぎないかなと思っています。マイカーで通勤されている方の業務のマイカー活用による公用車の削減が可能かどうか、公用車の稼働率はどうなんだろう、その辺で規模の参考になるのではないかと思います。

(座長)

多岐にわたる質問ですが、いかがでしょう。

(事務局)

職員数に関しまして、仰るとおり今後デジタル化、オンラインが始まりますと職員数は考えなければならないと思います。

現状では、資料の数字1,400人というのは、本庁舎にいる会計年度職員も含めた人数で、総職員数は、上下水道局や市立病院を含めて現在で2,200人程です。盛岡の場合は、都南村や玉

山村と合併しておりまして、一律には比較できないのですが、数年前は2,400人ということもありましたので、減少傾向にはありますけれども、適正規模かどうかということは判断が必要かと思えます。中核市でみると、人口当たりは、真ん中くらいの順位の職員数です。

ただ、仰るとおり、今後いろいろな事情、デジタル化に伴って必要な職員数というのは、考えなければならないと思っています。あくまでも資料は、本庁舎の人数ということでございます。

(事務局)

公用車の削減についてですが、業務でのマイカー使用は原則認めていないところです。また、公用車の管理につきましては、各課ごとに管理しておりますが、公用車の一元管理、例えば管財課が台数を確保して、必要な時に必要な部署がそれを予約して使うというような一元管理を今検討しておりまして、それによっては、何台か減るのではないかと検討しているところです。

(委員)

ということは、各課ごとの管理で、稼働率は把握されていないということでしょうか。

(事務局)

稼働率の調査はしておりますが、手元に資料を持ち合わせておりませんので、次回回答させていただきます。

(座長)

今後の課題ということによろしいでしょうか。

(委員)

規模についてですが、少子高齢化で人口が減っているということは、市役所の利用者も減ってくるのかなと思っています。デジタル化やDX推進によって、市役所はあらゆる情報発信の核となっていくって、社会や業務内容、役所の規模もすべて変わってくるのかなと感じております。それは、未来につながる希望が持てるものではないかなと、逆に胸がわくわくするような、それらが地域の活性化につながっていくのではないかなと、楽しみにしています。

(座長)

感想と期待ということによろしいでしょうか。デジタル化、DXということは、委員が詳しいと思いますが、規模が小さくなるのでしょうか。単純にはいかないのかもしれませんが、どのようなものなのでしょうか。

(委員)

現状は、過渡期にあると思っています。市役所を作れば50年とか耐用年数がある中で、現状は紙であったり書類がたくさんあったり、いろいろな部署をまたいで一つの申請をしなければならぬということがあると思うのですが、それがオンラインに代わって家でもできるとなれば、今後、世代がどんどん上がっていくにつれてそれが標準な世代になってくれば、今の窓口業務はかなり変わってしまう、窓口は無くていいのではないかと、というようなところに最終的にはなってくると思います。そうなってきた時に、海外の事例では、交流の場であったり、結婚式場になっていたり、シンボリックな位置付けの機能になったりということが出てきて、新たな機能が期待できると思いますし、官と民との交流であったりソフト面の成熟によって変わるのではないかと期待できると思います。

盛岡市が進めているデジタル推進計画は令和7年を区切りにされていますが、建物自体は令和8年以降に建つとなった時に、現状の業務状態をベースに検討していくのではなくて、令和7年までの成果をいかに高いところに上げて、その状態を建物の中に引き継ぐということが必要だと思います。今まさに始まっているところですし、官民連携の機能と言ったときに、どの程度の、実際に集まる場、またオープンにデジタルを使えばおそらく交流人口は市役所ではなく世界に広がっていったりですとか、日本各地との連携といったところが市役所を中心にできれば、域の枠を広げて、非常に面白いと思っています。

規模の話に移りますと、今の人口ですとか、職員数とか、業務のあり方とか、書類の数というのは母数ではなくて、令和7年までにソフト面が成熟した時の規模をどう読むかといったところがすごく大切なのではないかなと思っています。そうすると、人が来なくなれば駐車場にも影響が出てくると思います。

(座長)

委員にお聞きしますが、予測を超えた進歩ということもあると思いますが、今後20年30年先となったときに、ある程度そこまで見越した議論になるのか、あるいは、分からない部分もあるという余白の部分も含めて、未確定な部分まで考えたほうがいいのか、その辺りはいかがでしょう。

(委員)

かなり難しい御質問だと思います。未確定な部分や、技術の進歩があまりにも速いというのが現状ですので、今だからこそデジタルと言われてはいますがけれども、それが当たり前とな

った時にデジタルという言葉はもう廃れてしまっている環境の中での機能は読めないところがあると思います。そうなった時に、柔軟な庁舎の環境ということが機能面では必要なのではないかなと思います。間仕切りの考え方なのか、OA（Office Automation）フロアなのか、今の技術をどう適合させていくかだと思います。あと、建物の集約の考え方についても、まとめたほうがよいのか、機能が発展するのであれば、賃貸が本当に悪いのか、防災機能と窓口や交流の場というものは、まったく同じ機能が求められる訳ではないので、そういった可能性を組み入れて、変化への柔軟な対応、予備、幅を持たせる必要があるのではないかと、個人的には思います。

（座長）

その辺の予測困難なことも含めて対応できること、それが翻ると経済面や防災面、そこまで余裕があるかどうかを考えながら、今後の検討にしたいと思います。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

（委員）

今の話と関連するのですが、2点ほど。将来に向けた不確実性というのは、福祉面でも同じでして、新市庁舎を建て替えて、いろいろな技術が多様化して便利になっていく、そもそも市庁舎に来るとのこと自体、今現在でも市民の方に何うと、3年に1回くらいしか、大学生がこちらに移って住民票を移すくらいしか、普段は全然意識していない。普段は全然意識していないけれどもそれでよいと思うんです。意識していないけれども、もしもの時に、必ずそこに行ったら助けてくれる、というような機能がこれからの時代に必要なのかもしれません。

例えば、先ほど御指摘のあった市の職員の数と建物の規模とも関連するのですが、不確実性に対する柔軟性というのは、どんなに技術が進歩しても、遠隔地で孤立する人は必ず現れるし、街中でも孤立する人は現れます。そういったことに機動的にかつ連携をとりながら柔軟に対応できる職員がどれだけいるかということがとても大切なことだと思います。休憩前に御指摘のあった現庁舎でできることというのは、その中に含まれることかもしれません。それが1点。それから、見当違いなことかもしれませんが、例えば東京ですと、この10年くらいで喫茶店とかカフェ、美術館に高齢者がとても多くなっています。平日はほとんど高齢者です。なぜかと調べると居場所がない。家庭でもなく職場でもなく、自分が居られる場所を探すと、こういうところになるんだという返事がとても多いんです。学問的にはサードプ

レイスというのですが、いろいろな役割を果たさなくてもよい、家庭での役割とか職場での役割から離れた第3の場、そういう居心地のよい場というものを求めている人が多いと思うんです。単純に比較はできないのですが、もしかしたら、市役所という建物や周辺環境は、そういう市民が何かのときに行けば自分の居場所があるというような感覚をもってもらえるような、そういう距離の近さが孤立を防ぐ第一歩になるような気がします。高齢者が多くなってきて、そういう光景を見て思い出しました。

(座長)

サードブレイス、行政機能であるけれどもパブリックな場、そういう機能の場所になると面白いなと思いました。ありがとうございました。他いかがでしょうか。

次のエの整備手法についていかがでしょうか。29ページから32ページあたりでしょうか。

(委員)

31ページの(3)で、新たな価値を生み出す部分ですとか、良質な市民サービスといったところで、先ほどのパブリックなあり方という議論もありましたが、価値を生み出すのにどういったことが適切なのか、どういった場所が適当なのかという観点で、現状では財政負担の軽減のみしか記載されていないと思いますので、消費するところだけではなくて、新たな価値を生み出す部分、せつかくですので、そういったことの可能性を強めに言って欲しいなというお願いです。

(座長)

ありがとうございます。もしかすると、資料にここが足りないぞというのがあるかもしれません。ほかいかがでしょう。

(委員)

市役所の役目として、住みよいまちづくりにつながっていくものだと思いますけれども、今朝の新聞に、盛岡に未来型商品開発拠点ということで、岩手銀行さんとNTTさんで、中央通りに特産品などを展示販売するというので、AI(Artificial Intelligence:人工知能)とかデジタルを活用して地域の未来づくりに向け地域経済の活性化を図りたいということが大きく出ておりました。すごいことだと思いますが、こういうところに連動したような、つながっていくような庁舎であればよいなと感じました。中央通りがいかに盛岡の窓のような感じで、中央通りの正面に市役所のビルがあり、これから出てくる問題だと思いますが、盛岡の誇りに思えるような住みよいまちにつながっていくのかなと期待を持っております。

ます。

(座長)

新聞に出ておりましたね。ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

(委員)

補強、賃貸、敷地内建替など、メリット、デメリットを整理されてますけれども、新しい価値として、もし検討できるのであれば、全部木材で作るとか、岩手は森林県ですから。CLT (Cross Laminated Timber : 直交集成版) で今の盛岡市役所の規模であれば、技術的には全部木材でできますので。まだ、全国の市庁舎でそういうのは無いですから、やればやっただ、ものすごい効果があると思います。コストがどうかわかりませんが、まな板には載せていただいて、移転新築の前提ですが、検討には値するのではないかと思います。

(座長)

木材による建物ということも排除するのではなく、検討材料として入れたいということがあります。ありがとうございます。ほかいかがでしょう。

(委員)

委員の御意見の続きで、木材で市庁舎を作る場合、市産材を使えれば望ましいと思います。コスト面も含めて供給できるかどうかの確認が必要です。

材料の供給に加えて、できるだけ多く盛岡市内の事業者市新市庁舎の建築などで関わっていただくようにすることが重要だと思います。市新市庁舎の建築を通して、盛岡市内、少なくとも岩手県内でお金とモノやサービスがまわっていくような地域経済循環が生み出せると、幅広く将来的な盛岡市における地域経済の活性化にもつながり、ひいては財政負担という大きな課題を軽減できることにもつながるのではないかと思います。そのあたりは地域の財政学や地域経済学の専門的な手法、分野による分析が必要になりますので、盛岡市役所内外でもご検討いただければと思いますけれども、そういう視点もが必要ではないかと思います。

(座長)

ありがとうございます。なるほどと思いながら触発されてですが、地場材を使うことを前提としつつ、むしろ市民の手作り市庁舎として、みんなで作ったら面白い。すべてではないにせよ、あるフロアなり、ある部分なり、実は盛岡市庁舎はみんなが作っているんだ、そういうようなことも面白いなど。作る過程そのものが新しい市庁舎のあり方を示すメッセージにならないかなと思ったところです。他、皆様からいかがでしょう。

(委員)

委員のお話、私も賛成なのですが、実現したときは、火災の心配がまずあるかなと。

それから、関連しますが、建築、設計は、できれば仙台以北が望ましいと考えておりました。例えば東京や仙台以南の設計の方は、盛岡は寒冷地ですので、冬場の窓の結露など、盛岡に適した風土、建築、設計、環境が必要と感じてまして、出身や実績が仙台以北であったほうがよろしいかと思っています。継続、持続していくときのメンテナンスとか後々背負っていく、担っていくのが大変になると思いますので、やはり土地に精通の方がよいのかなと思います。例えば、自然にやさしいということで、自然水、川の水を使おうというときも、実は赤水が出るよとか、そういったことが分かっている方をお願いしたほうが、後々のトラブルもなるべく少なく抑えることができると思っています。

(座長)

ありがとうございます。今後の検討材料にさせていただければと思います。

時間も迫ってきましたので、また振り返るとして、最後のオの部分、整備エリアについても議論したいと思いますが、32ページから、みなさんからいかがでしょうか。

(委員)

エリアの関係で、みなさん御存知と思いますが、盛岡市の都市整備の分野で、内丸ビジョンを昨年作られて、今年から内丸プランを作っています。内丸エリアの事業者やビルの人たちが集まって内丸をどうしていきましょう。岩手県もNTTも岩手銀行も入ってということでやっています。その中で盛岡市役所も大事な要素です。あとは岩手医科大学ですよね。どこに建てるかというのがありますが、今日は都市整備部長さんもいらっしゃっているので、言える範囲で、お話しいただけるとありがたいです。

(都市整備部長)

今お話しいただいた内丸プランですけれども、ビジョンを今年3月に策定いたしました。その中でも記載しておりましたが、今年度は市が総合調整役を担って協調的な地区再生の方向性でより具体化していく。もともと一団地の官公庁施設ということで、官庁街が集約してまとまって協力して整備し、その周辺で行政機能、商業機能が発展してきたという経緯がございます。そういった意味でエリアのみなさんで内丸エリアがどうあるべきか、というところを今後検討してまいりたいと考えております。ただいま、各種会議体に向けて最終調整中でございます。今年度は昨年度の懇話会を引き継ぐところと具体的な実務者間の会議とい

うことで、もう一つ施設管理者レベルの会議体を設置させていただこうと考えております。併せて、具体的な議論のところ課題も生まれてくると思いますので、有識者を交えて場を設けてまいりたいと思っております。今後8月中旬以降、お盆明け以降で各種会議体の設置を進めてまいります。また改めて具体的な内容は周知させていただきますけれども、こちらの新市庁舎の検討とも随時共有連携を図っていきたくと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(座長)

ありがとうございます。他、エリアについていかがでしょう。

(委員)

駅西エリアについてですが、開発当初、マリオスが建ったあたりは、駅西の開発構想があったと思うのですが、それがなかなか進まない中で、駅西エリアも、市の土地があるということで候補になっていますが、洪水浸水想定区域のほかに、何かネックになっていることがあるのかということと、マリオスの地下にも電力、熱源設備があったはずですので、今の市役所と状況は一緒かなと思いますが、省エネという構想も駅西エリアはあったはずだと思いますので、その辺りのことを確認したいのですが。

(座長)

だいたい触れられているところかなとは思いますが、それ以外に何かあればお願いします。

(事務局)

具体的にお話しできることはあまりないのですが、西口地区全体の残っている大きな区画としては、市有地がありまして、国の合同庁舎が建っているところの空き地は、別の目的で公募をしています。公募をしている空き地はありますが、それ以外に大きな計画はありません。マリオス、地域交流センターが所有しているところは、さまざまな計画があろうかと思えます。それから、洪水浸水想定区域以外にネックがあるのかということについては、2月にまとめた報告書の中では浸水想定区域がネックということでございます。またおっしゃっていた省エネというのは、おそらく西口の地域冷暖房システムというものだったかなと思います。

(座長)

今の段階では、このあたりでよろしいですかね。ほかいかがでしょうか。

もしくは、ここで決めるものではありませんので、今後も御意見をいただくということだ

と思います。

一通り、アからオまで御意見をいただきましたが、振り返りながら、全体で言っておきたい、聞いておきたいということがあれば、残りの時間自由をお願いします。

(委員)

機能のところ、グリーン庁舎の話が出ました。何人かの委員に出していただいた意見のおりだと思います。例えば市産材を使用して木造の新市庁舎にする場合、今の鉄筋コンクリート造りの市庁舎を60年で建て替えることを検討しているわけですが、木材にすることで、建て替えの年数が延びるのかということも、他の委員から出た持続可能性に関連することで大事な観点だと思います。

日本でもゼロエネルギービル (net Zero Energy Building : Z E B) の建物が出てきています。省エネと再生可能エネルギーの組み合わせでできるようになっています。それがうまくいくとエネルギーの収支がゼロにできるだけにととまらず、使ったエネルギーよりも生み出すエネルギーを別に使えるというプラスエネルギーの建物があれば、日本ではインパクトのある取組なのかなと思います。

最近、盛岡市内でも屋根だけではなくて、壁面に太陽光パネルを載せているような家やアパートを時々見かけます。ドイツのフライブルグの市役所の庁舎は、壁面全部が太陽光パネルになっていますので、日本で再生可能エネルギーを普及させる方法はまだまだあると思っています。。たりするので。ただ、聞いた話では、デザイン重視で省エネの方はなかなかということで、ただ、7番にデザインコンセプトということが書いてありますが、建物への省エネ・再生可能エネルギーの導入と建物のデザインのバランスをとることも建物を建てる時は重要です。

他の委員から御意見があったように気候や風土に適した建物も大事です。特にコストを考えると全国一律の建物を数多く建てる方が費用は安く済ませられるだと思いますが、北東北地方の気候や風土に適した建物、も大事になってくると思います。新市庁舎は長期に使われる建物で、市民などの利用者以上に長時間そこで働かれる盛岡市役所職員が働きやすいような職場環境の整備ということでも気候や風土に適した建物を建てる理由になると思います。一度建物を建ててしまうとなかなか変えられないこともあると思います。他の委員からの意見でもございましたように、変えることが難しいところはできるだけ考えられる範囲で可能な限り良いものをつくって、変えられるところは柔軟に変えられるようにする方法は環境や

エネルギーの機能面でも考慮に入れる必要があることを付け加えさせていただきます。

(座長)

ありがとうございます。市民もちろんですが、職員も働きやすい方がよいと思いますので、その辺の意見もいろいろもらえるんですよね。議論されるんですよね。

(事務局)

市民会議でも、参加者の皆さんに御心配いただく御意見もあって、良質な行政サービスを提供するためにも、職員が使いやすい、働きやすい庁舎にすることも必要だという御意見もいただいております。そういった視点の議論も必要かと思っています。

あと、少し戻りますが、すぐにでもできることという御指摘もいただいておりますので、そういったことも踏まえて対応してまいりたいと考えております。

(座長)

ちなみに冒頭にあった、作った後何年くらい使おうというものはあるのですか。

(事務局)

そこまでは具体的には検討しておりません。

(座長)

それによっても考え方がいろいろあるなと思いました。ほかいかがでしょう。

(委員)

先ほど、木の話をして、委員にも触れていただいたんですが、構造材まで木を使うのはなかなか勇気がいる設計だと思う一方で、内装材、腰板、窓の下の1. 何メートルを杉の板で覆うと、古くなれば取り換えればよいし、通気性があって人にやさしいということもありますし、全部のフロアに使うと、働きやすい、それを県産材にするとそれほどお金もかからないので、いかがでしょう。

(座長)

一つのアイデア、御意見ですね。ありがとうございます。

(委員)

委員と同じ意見ですが、私も職員の方々に働きやすい、アクティビティベースドワーキングという形で、それぞれの仕事や会議体に合わせてという形で、生産性やデメリットの問題はあると思うのですが、是非検討いただいて、日本の人口が減る中で、優秀な職員が盛岡市

役所に集まるように考えると、職員の環境は大事だと思います。

(委員)

今職員の働きやすさというお話がありましたが、最初に老朽化とか狭いとか、駐車場とか、バリアフリーでないとか非常に不便だとか、そういうことを利用者は言っていますが、職員はそのような中で仕事をされているんです。大変な中で一生懸命努力なさっていてありがたいと思っていますが、スマホでマイナンバーカードを使って行政手続きができたり、コンビニで住民票など各種証明書が発行できたり、そういう時代になってきているので、少し作業が楽になる部分もあるのかなと感じております。

(座長)

みなさん、盛岡市職員にやさしいですね。一方で、お金のことなど市民の目も厳しいぞという御意見もあったと思います。

だいたい時間ですが、これからも議論の続きがありますので、よろしいでしょうか。

私が思ったのは、一つは盛岡らしい建物でありたい、また、盛岡らしい作り方でありたい、また、盛岡らしい使い方でありたい、そんなことを大事にしたいかなと思いました。それと委員からでしたでしょうか。できることは、建つ前でもできるのではないかと、建物もだが、大事な人は人ではないか、そういう意味では、そこで使う人、働く人がすでにできることをどんどんやってよいのではないかと、そのことが翻ると良い新市庁舎になるのではないかと、そんなことを思ったところです。では、今後の議論は、第2回以降ということではよろしいでしょうか。

では、事務局にお戻しします。

《市長あいさつ》

「新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会」の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

まずもって、皆様には、有識者等懇話会の委員を御承引いただき、改めて感謝申し上げます。

さて、現在の市役所本庁舎本館は、昭和37年に竣工し、約60年が経過しております。

その間、耐震補強工事や施設改修を行ってきたところではありますが、施設の老朽化や庁舎の分散、駐車場不足などにより、利用いただく方に御不便をおかけしているほか、洪水浸水想定区域内に立地しており、防災機能拠点としての課題があります。

市ではこれまで、市内部において新市庁舎整備の検討を進めてまいりましたが、さらに、市民の皆様から広く御意見やアイデアをいただき、皆様に愛される庁舎、そして将来を見据えた庁舎の整備に反映させていくため、新たに「市民会議」と当「有識者等懇話会」を設置したところでございます。

7月に開催された第1回の「市民会議」においては、市民の皆様から積極的な発言がなされ、庁舎整備への関心の高さや期待とともに様々な要望などが示されたところであります。

本懇話会におきましても、様々な分野から御参加いただいた委員の皆様、専門的な見識に基づいたご意見が、活発に交わされることを期待申し上げ、開催に当たってのあいさつとさせていただきます。

本日は、よろしくごお願い申し上げます。